



変位センサCD5通信プロトコル設定マニュアル



オプテックス・エフエー株式会社

www.optex-fa.jp

《目次》

1. 概要	4
1.1. オプテックス・エフエーCD5の通信プロトコルの概要	4
1.2. 通信プロトコル機能概要	4
2. システム構成	7
2.1. システム構成例	7
2.2. 結線図	8
2.3. ソフトウェア	8
3. 運転前の準備	9
3.1. インテリジェント機能ユニット設定	9
3.2. CD5シリーズの通信設定	9
3.3. CD5シリーズの通信設定手順	10
3.4. イベントフロー	11
3.5. タイミングチャート	11
4. 通信プロトコルの説明	12
4.1. RM: 現在値一読出 (現在値読出し)	12
(1) 送信パケットの設定	12
(2) 受信パケットの設定	12
4.2. WA: 平均回数一書込 (平均回数の書き込み)	13
(1) 送信パケットの設定	13
(2) 受信パケットの設定	13
4.3. RL: レーザーパワー一読出 (レーザーパワー読出し)	14
(1) 送信パケットの設定	14
(2) 受信パケットの設定	14
5. 通信プロトコル設定 (通信プロトコル支援機能での設定)	15
6. 使用上の注意	19
7. 関連マニュアル	19
8. 使用例	20

改定履歴

改定日	改定内容
2011／2／14	新規作成
2011／5／17	CD5シリーズ結線修正
2011／5／27	CD5シリーズの通信設定修正
2011／6／2	CD5シリーズの通信設定手順を追加

1. 概要

1.1. オプテックス・エフエーCD5の通信プロトコルの概要

MELSEC-Q/LシリーズとRS-485経由でオプテックス・エフエー社変位センサCD5を接続するシステムの通信プロトコルです。

1.2. 通信プロトコル機能概要

オプテックス・エフエー社変位センサCD5用には以下に示す機能の通信プロトコルがあります。

No	通信プロトコル名	機能	内容
1	RM: 現在値－読出	センサ測定値の読出	測定値が読み出されます。 ※1
2	WA: 平均回数－書込	移動平均の設定	測定値の移動平均回数を選択します。
3	WH: シフト値上位－書込	キャリブレーションシフトの設定	シフト値の上位8ビット(バイナリ値) (00H) ※2
4	WG: シフト値中位－書込	キャリブレーションシフトの設定	シフト値の中位8ビット(バイナリ値) (00H) ※2
5	WF: シフト値下位－書込	キャリブレーションシフトの設定	シフトの下位8ビット(バイナリ値) (00H) ※2
6	WO: スパン値上位－書込	キャリブレーションスパンの設定	スパン値の上位8ビット(バイナリ値) (00H) ※3
7	WP: スパン値中位－書込	キャリブレーションスパンの設定	スパン値の中位8ビット(バイナリ値) (80H) ※3
8	WQ: スパン値下位－書込	キャリブレーションスパンの設定	スパン値の下位8ビット(バイナリ値) (00H) ※3
9	WR: 測定対象－書込	測定対象の設定	測定対象を選択します。
10	WV: 拡散／正反射－書込	センサタイプの設定	センサヘッドのタイプを選択します。
11	WL: レーザーパワー－書込	レーザーパワーの設定	レーザーパワーを選択します。
12	WS: 受信感度－書込	受信感度の設定	感度を選択します。 MIN から順番に受光感度が高くなります。
13	WB: 通信速度－書込	通信速度の設定	センサヘッドとアンプ間の通信速度を選択します。
14	WT: 受光波形しきい値－書込	受光波形しきい値の設定	受光波形閾値を選択します。 0 から順番に閾値が上がります。
15	WC: サンプルング周期－書込	サンプルング周期の設定	サンプルング周期を設定します。
16	WI: 相互干渉防止－書込	相互干渉防止の設定	相互干渉の防止機能を選択します。
17	WD: アラーム時測定値－書込	アラーム時測定値の設定	アラーム時の測定値を選択します。

18	WN: 入力タイプ—書込	入力タイプの設定	接続したヘッドタイプを選択します。
20	RA: 平均回数—読出	平均回数の読出し	平均回数を読み出されます。
21	RR: 測定対象—読出	測定対象の読出し	測定対象を読み出されます
22	RV: 拡散／正反射—読出	センサタイプの読出し	センサタイプを読み出されます
23	RL: レーザーパワー—読出	レーザーパワーの読出し	レーザーパワーを読み出されます
24	RS: 受信感度—読出	受信感度の読出し	受信感度を読み出されます
25	RB: 通信速度—読出	通信速度の読出し	通信速度を読み出されます
26	RT: 受光波形しきい値—読出	受光波形しきい値の読出し	受光波形しきい値を読み出されます
27	RC: サンプルング周期—読出	サンプルング周期の読出し	サンプルング周期を読み出されます
28	RI: 相互干渉防止—読出	相互干渉防止の読出し	相互干渉防止を読み出されます
29	RD: アラーム時測定値—読出	アラーム時測定値の読出し	アラーム時測定値を読み出されます
30	RN: 入力タイプ—読出	入力タイプの読出し	入力タイプを読み出されます

※1測定値

測定値は24ビットで表現されます。ただし上位3ビットは常に0です。

+0	下位16ビット	
+1	未使用(8ビット)	上位(8ビット)

最低値	0	0H
測定範囲の最—近距離側	349525	55555H
測定範囲の中心	1048576	100000H
測定範囲の最—遠距離側	1747626	1AAAAAH
最大値	2097151	1FFFFFH

※2キャリブレーションシフト(24ビット)

最上位ビット以外は測定値と同じです。

最上位ビットは符号を表します。(0: +, 1: -)

初期値(0)	0	0H	MSB=0
最大値(+699050)	699050	AAAAAH	MSB=0
最低値(-699050)	9087658	8AAAAAH	MSB=1

ダブルワードを8ビット単位で分割し各コマンドで送信します。

+0	中位(8ビット)(00H)	下位(8ビット)(00H)
+1	未使用	上位(8ビット)(00H)

測定値をシフトする場合に用います。

※3キャリブレーションスパン(24ビット)

測定値のスパンを変更する場合に用います。

0. 000～3. 9999まで設定できます。

この数値に32768を掛けた数値をデータとして書込みます。

初期値(1. 0000)	32768	8000H	=1. 0000 * 32768
最低値	0		
最大値(3. 9999)	131068	1FFFCH	=3. 9999 * 32768

ダブルワードデータを8ビット単位で分割し各コマンドで送信します。

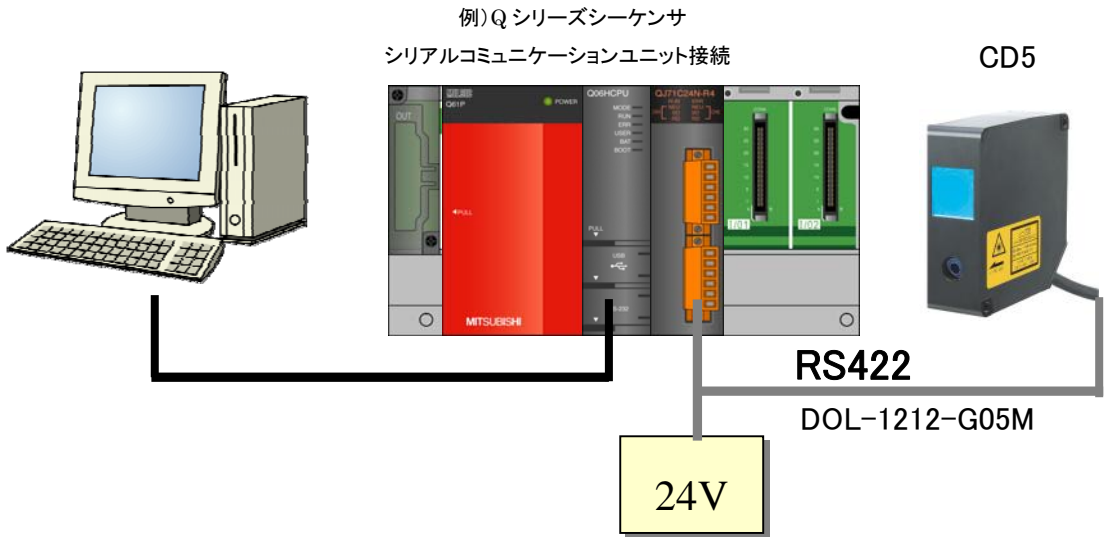
中位”P”のみ初期値は80Hとなります。

+0	中位(8ビット) (80H)	下位(8ビット) (00H)
+1	未使用	上位(8ビット) (00H)

2. システム構成

2.1. システム構成例

GX Works2(Version 1.45X 以降)

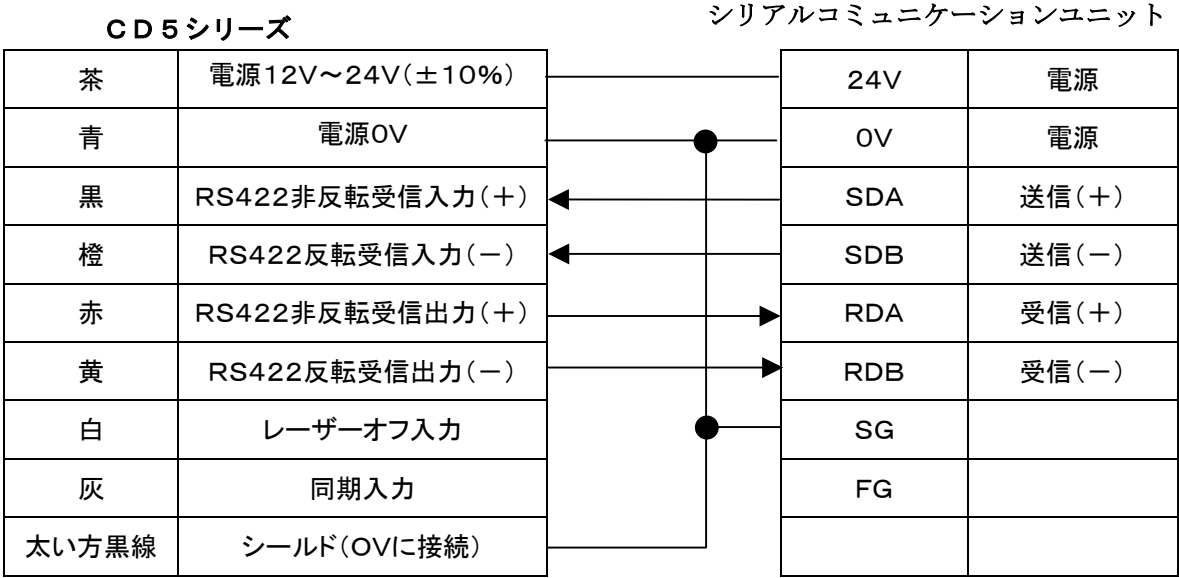


No	機器	説明		
1	三菱電機 シーケンサ システム	シリーズ	型式	備考
		MELSEC-Qシリーズ※1	QJ71C24N (※2) QJ71C24N-R4	Qシリーズ シーケンサCPU・ベースユニット・電源ユニットが必要です。
		MELSEC-Lシリーズ	LJ71C24 ※2	Lシリーズ シーケンサCPU・電源・ENDカバーが必要です。
		※1 QCPU(Aモード)使用不可 (ユニバーサルモデル／ベーシックモデル／ハイパフォーマンスモデル対応) ※2 接続するときはCH2を使用して下さい。		
2	オプテックス・エ フェー 変位センサ	シリーズ	型式	備考
		CD5シリーズ	CD5-L25, CD5-LW25 CD5-L30, CD5-W85 CD5-LW85, CD5-W350 CD5-W500, CD5-W2000	本体
		CD5シリーズ用ケーブル	DOL-1212-E05M	5mケーブル

2.2. 結線図

シリアルコミュニケーションユニットとデジタル変位センサとは以下のように結線してください。

CD5シリーズとコミュニケーションユニットを接続するケーブルを示します。



2.3. ソフトウェア

No	メーカー	製品情報	型式	バージョン	備考
1	三菱電機	シーケンサ設計・保守ツール	GX Works2	1.45X以降	

3. 運転前の準備

3.1. インテリジェント機能ユニット設定

専用命令の実行結果を判定します。

完了デバイス

完了時の状態表示デバイス

完了時の状態表示デバイス

スイッチ設定 0000:QJ71C24N-R4

項目	CH1	CH2
動作設定	独立	独立
データビット	8	8
パリティビット	なし	なし
奇数/偶数/パリティ	奇数	奇数
ストップビット	1	1
サムチェックコード	なし	なし
RUN中書き込み	許可	許可
設定変更	許可	許可
通信速度設定	115200bps	115200bps
交信プロトコル設定	通信プロトコル	通信プロトコル
局番設定 (CH1,2共通:0~31)	0	

以下の設定は、製品情報10122000000000-B以降で使用可能です。
 交信プロトコル設定
 ・通信プロトコル
 ※PCパラメータで設定されたスイッチ設定に範囲外の値がある場合、
 デフォルト設定として扱われます。

OK キャンセル

※CD5の初期設定をおこなう場合は QJ71C24N(-R4)の通信速度設定を 9600bps に設定してください。

3.2. CD5シリーズの通信設定

通信設定	接続機器側
通信方式	RS-422
通信速度	9600bps～115.2kbps、初期値921.6kbps
伝送コード	ASCII(一部のコードはバイナリ)
データ長	8ビット
ストップビット長	1ビット
パリティチェック	なし
データ区分	STX, ETX
チェックコード	排他的論理和(XOR)

表3.2 CD5シリーズの通信設定

3.3. CD5シリーズの通信設定手順

CD5 シリーズの初期状態ではコミュニケーションユニットと通信しません。

以下の手順により通信設定を変更してください。

CD5 シリーズ電源投入後、センサヘッドの通信速度は下記のように切り替わります。

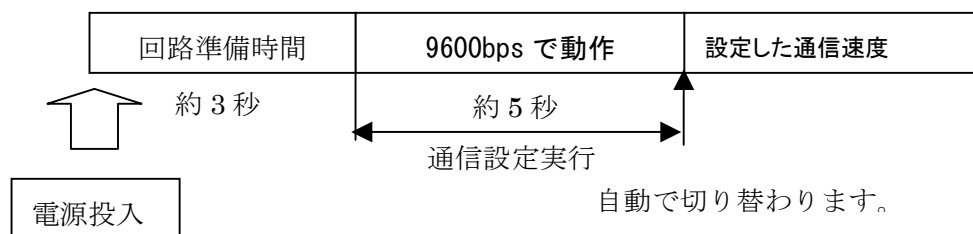


図 3.3 通信設定手順

センサヘッド内には導入した時の通信速度が記憶されています。(初期値 921.6kbps)

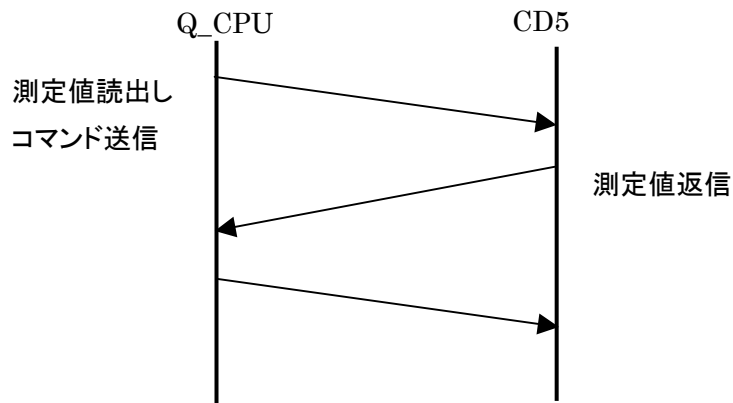
電源を OFF しても設定内容は記憶しています。

回路準備期間経過後、通信速度の設定のプロトコルをご使用頂くと、次回からは電源投入後 8 秒後、設定した通信速度へ自動的に切り替わります。

<手順>

1. センサとシリアルコミュニケーションユニットを接続します。
2. コミュニケーションユニットに CD5 用通信プロトコルライブラリを転送します。
3. シリアルコミュニケーションユニットの通信速度を 9600bps にします。
(通信速度以外は同じ設定。3.1 章インテリジェント機能ユニット設定をご参照ください。)
5. CD5 シリーズの電源投入後、3 秒～8 秒間(9600bps 動作中)にパラメータ設定画面。
(通信設定プロトコルを実行した後は設定した通信速度になります。)
6. シリアルコミュニケーションユニットの通信速度もセンサと同じ通信速度に設定します。
(シリアルコミュニケーションユニットの通信設定変更後は必ずシーケンサをリセットしてください。)

3.4. イベントフロー



3.5. タイミングチャート

ファンクションブロックのタイミングチャートを以下に示します。

・通信プロトコル準備完了 (X1D)

・測定値読み出し開始 (M10)

(本通信プロトコル)

・コマンド送信

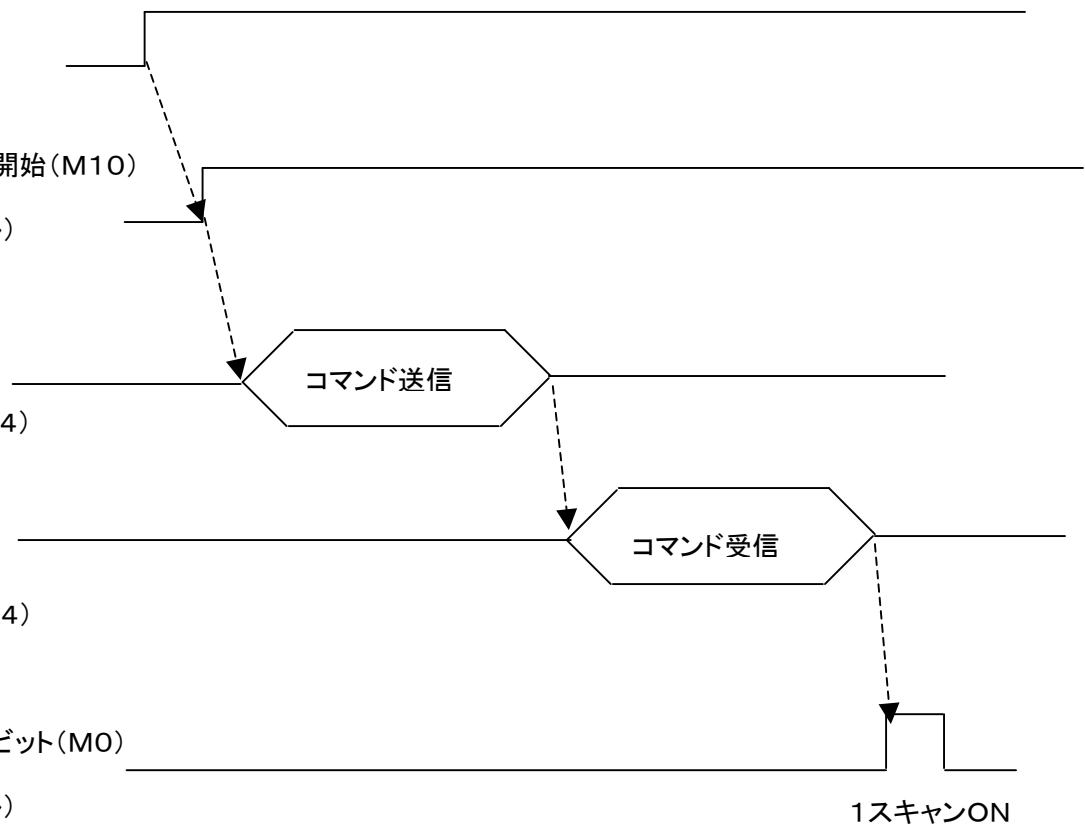
(QJ71C24N-R4)

・コマンド受信

(QJ71C24N-R4)

コマンド処理完了ビット (M0)

(本通信プロトコル)



4. 通信プロトコルの説明

4.1. RM:現在値一読出(現在値読出し)

測定値を1回読み出す場合

(1)送信パケットの設定

名称

Measurement Read-M

機能内容

送信コマンド形態

N o	構成要素名	CD5	設定※1	設定内容
1	STX	02H	—	ヘッダ
2	コマンド	“M”	—	測定値
3	DATA	“?”	—	測定値読出し
4	ETX	03H	—	ETX
5	Check	71H	—	水平パリティ

※1 ○:デバイスの設定必要、—:デバイスの設定不要

(2)受信パケットの設定

名称

Receive data-M

機能内容

受信コマンド形態

N o	構成要素名	CD5		設定※1	設定内容
1	STX	02H		—	ヘッダ
2	DATA0	D1001	上位	○	測定値の上位8ビット(バイナリ)
			上位		
3	DATA1	D1000	上位	○	測定値の中位8ビット(バイナリ)
			下位		測定値の下位8ビット(バイナリ)
4	ETX	03H			ETX
5	BCC	XOR	—	—	水平パリティ

読み出した測定値を指定したデバイスに格納されます。

※ 1 ○:デバイスの設定必要、—:デバイスの設定不要

4.2. WA: 平均回数一書込(平均回数の書き込み)

センサのサンプル平均回数を設定する場合

(1) 送信パケットの設定

名称				
Measurement Read-A				
機能内容				
送信コマンド形態				
N o	構成要素名	CD5	設定※1	設定内容
1	STX	02H	—	ヘッダ
2	コマンド	“A”	—	平均回数
3	データ	D2000	○	回数指定 0:1, 2:4, 3:8 ~ 8:256, 9:512, A:1024, B:2048, C:4096
4	ETX	03H	—	ETX
5	Check	Xor	—	水平パリティ

※1 ○: デバイスの設定必要、—: デバイスの設定不要

(2) 受信パケットの設定

名称

Receive data-M

機能内容

受信コマンド形態

N o	構成要素名	CD5		設定※1	設定内容
1	STX	02H		—	ヘッダ
2	DATA0	D1004	上位	○	コマンド “<”正常終了 “?”異常終了
			上位		
3	DATA1	D1005	上位	○	20H(固定)
			下位		20H(固定)
4	ETX	03H			ETX
5	BCC	XOR	—	—	水平パリティ

読み出した測定値を指定したデバイスに格納されます。

※ 1 ○: デバイスの設定必要、—: デバイスの設定不要

<補足> その他のセンサ設定値を書込む場合も同様の方法でおこないます。

4.3. RL:レーザーパワー―読出(レーザーパワー読出し)

レーザーパワー読み出す場合

(1)送信パケットの設定

名称

Measurement Read-V

機能内容

送信コマンド形態

No	構成要素名	CD5	設定※1	設定内容
1	STX	02H	—	ヘッダ
2	コマンド	“V”	—	レーザーパワー
3	DATA	“?”	—	レーザーパワー値読出し
4	ETX	03H	—	ETX
5	Check	71H	—	水平パリティ

※1 ○:デバイスの設定必要、—:デバイスの設定不要

(2)受信パケットの設定

名称

Receive data-V

機能内容

受信コマンド形態

No	構成要素名	CD5	設定※1	設定内容
1	STX	02H	—	ヘッダ
2	DATA0	D1042	○	コマンド 0:OFF, 1:1, 2:2, 3:3, 4:4, 5:5 (MAX)
3	DATA1	20H	○	固定値
		20H		固定値
4	ETX	03H		ETX
5	BCC	XOR	—	水平パリティ

読み出した測定値を指定したデバイスに格納されます。

※ 1 ○:デバイスの設定必要、—:デバイスの設定不要

<関連マニュアル>

以下のマニュアルをご参照ください。

オプテックス・エフエー変位センサCD5シリーズ RS422によるCD5センサヘッドの制御

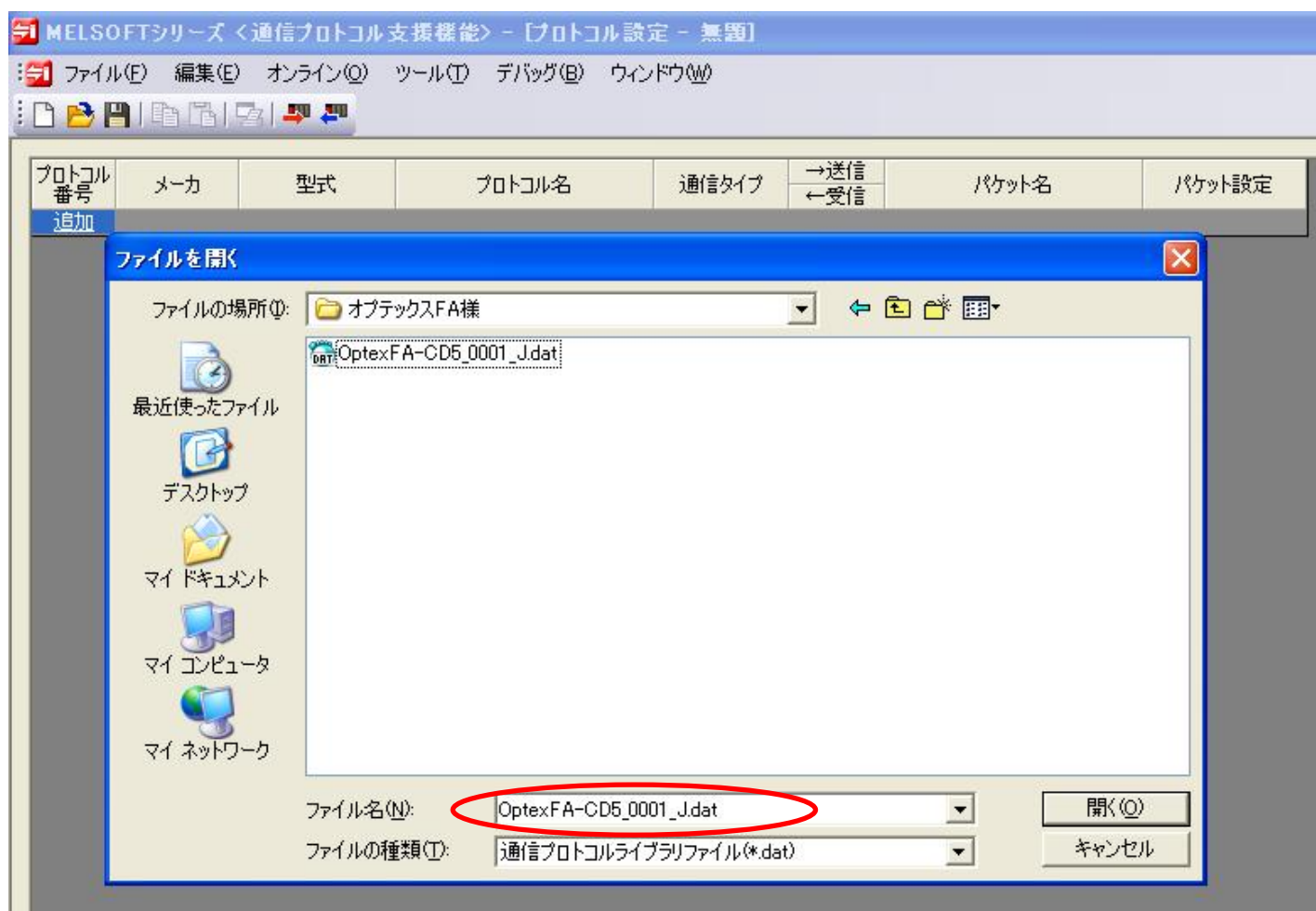
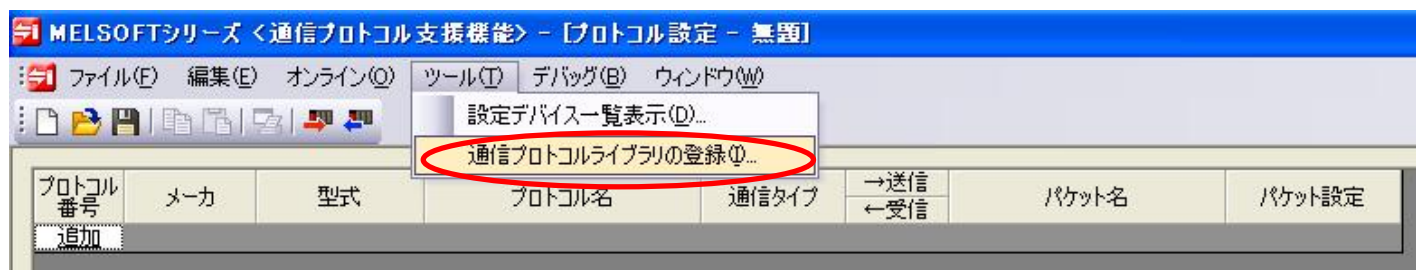
<補足>その他のセンサ設定値を読出す場合も同様の方法でおこないます。

5. 通信プロトコル設定(通信プロトコル支援機能での設定)

(1) 通信プロトコル支援機能起動手順

GX Works2メニューの「ツール」→「インテリジェント機能ユニット用ツール」→「インテリジェントユニット」→「通信プロトコル支援機能」の順に起動します。

(2) 通信プロトコルライブラリのインポート手順



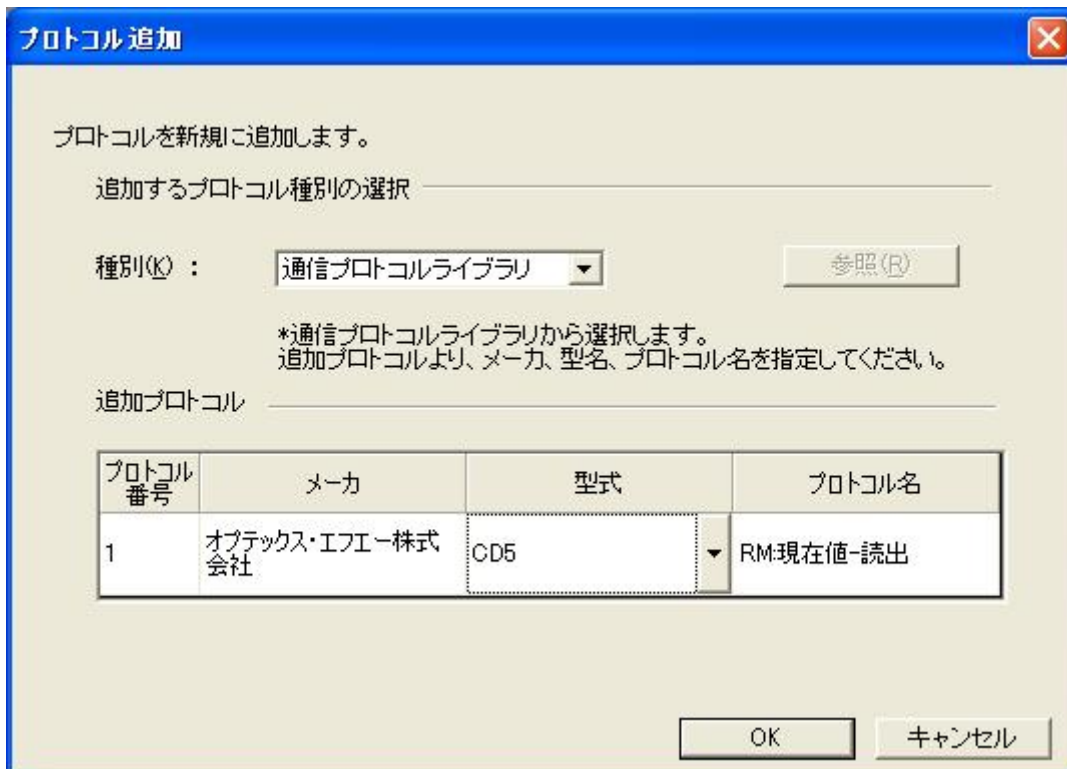
(3) プロトコル追加

通信プロトコル支援機能メニュー「編集」→「プロトコル追加」を選択します。

「プロトコル追加」画面では以下を選択します。

- (a) メーカー 「オプテックス・エフエー」を選択
- (b) 形式 「CD5」を選択
- (c) プロトコル名 使用するプロトコル名を選択

※下図では「RM:現在値一読出」を選択しています。



プロトコルを新規に追加します。

追加するプロトコル種別の選択

種別(K): 通信プロトコルライブラリ 参照(R)

*通信プロトコルライブラリから選択します。
追加プロトコルより、メーカー、型名、プロトコル名を指定してください。

追加プロトコル

プロトコル番号	メーカー	型式	プロトコル名
1	オプテックス・エフエー株式会社	CD5	RM:現在値一読出

OK キャンセル

(4) 構成要素設定

送信データ格納エリア、受信データ格納エリアを指定します。

(a) パケット名 「パケット設定」のセルを選択

(b) パケット設定 「構成要素設定」のセルを選択

(c) 構成要素設定 「送信データ格納エリア、受信データ格納エリア」にデバイスを設定します。

※デバイス設定は送信データ格納エリアまたは受信データ格納エリアで設定します。

The screenshot shows the MELSOFT software interface for setting communication protocols. The main window displays a table of protocols, and a sub-dialog titled '構成要素設定 - 変換なし変数(受信)' is open, allowing for the configuration of specific data elements.

プロトコル番号	メーカー	型式	プロトコル名	通信タイプ	→送信 ←受信	パケット名	パケット設定
1	オプテックス・エ	CD5	RM現在値-読出	送信&受信			
					→	Measurement Read-M	(変数なし)
					←(1)	Receive data-M	変数未設定

追加

パケット設定

プロトコル番号: 1 プロトコル名: RM現在値-読出
 パケット種別: 受信パケット パケット名(N): Receive data-M
 パケット番号: 1

構成要素一覧(L)

構成要素番号	構成要素種別	構成要素名	構成要素設定
1	ヘッダ	STX	[STX(1バイト)]
2	変換なし変数	DATA0	変数未設定エラー(固定長/1バイト/下上バイト/入替無)
3	変換なし変数	DATA1	変数未設定エラー(固定長/2バイト/下上バイト/入替有)
4	ターミネータ	ETX	[ETX(1バイト)]
5	誤りチェック	CR	[CR(1バイト)]

構成要素設定 - 変換なし変数(受信)

構成要素名(N): DATA0
 固定長/可変長(M): 固定長
 データ長/最大データ長(A): 1
 データ格納単位(S): 下位バイト+上位バイト
 バイト入替(B): しない(下位→上位)

データ格納エリア指定

受信データ格納エリア(D): D1000 (1ワード)
 D1000

[指定可能なデバイス記号]
 X, Y, M, L, B, D, W, R, ZR, G (バッファメモリ)

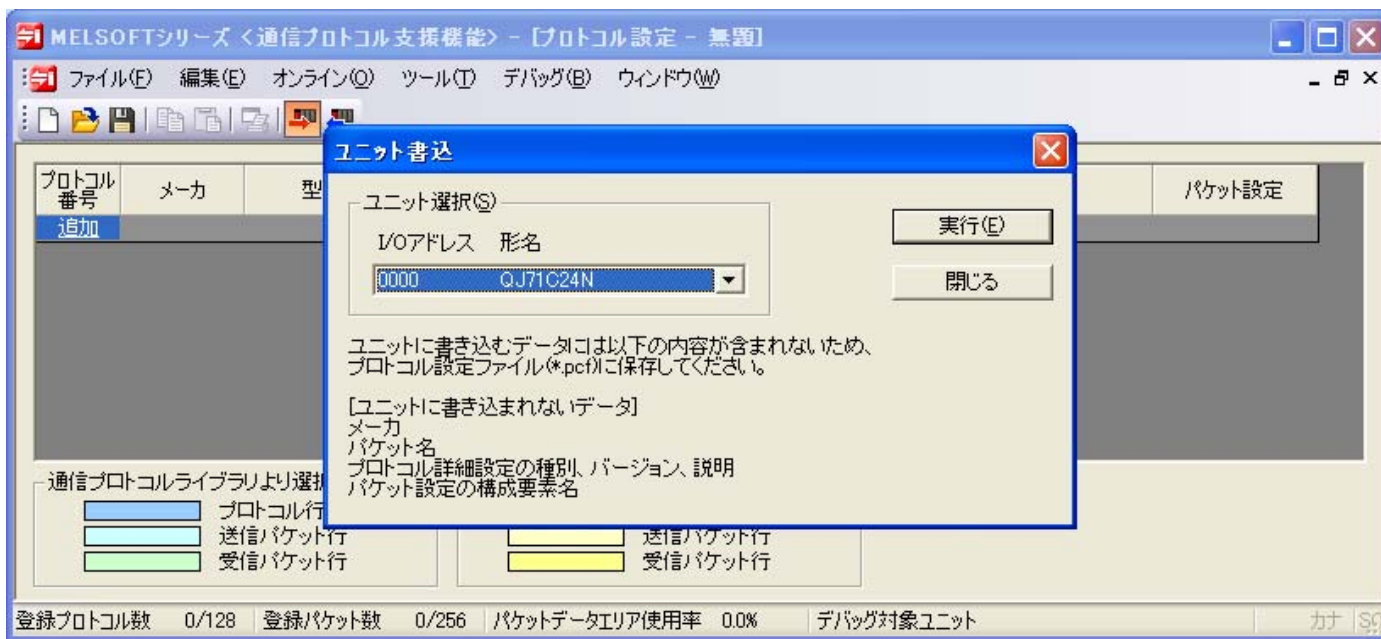
OK **キャンセル**

上図、データ格納エリアについては4. 通信プロトコルの説明に記載されている「O」になっている箇所が対象になります。

(5) ユニット書込

通信プロトコル支援機能メニューの「オンライン」→「ユニット書込」の順に起動します。
作成したプロトコルの書き込みを実行します。

※ 下図では、I/Oアドレス「0000」、型名「QJ71C24N」を選択しています。



6. 使用上の注意

- (1) 専用命令 (G(P). CPRTCL) が異常完了した場合は、該当するシリアルコミュニケーションユニットのマニュアルを参照して下さい。
- (2) センサ側の各種設定方法については、該当するCD5シリーズのマニュアルを参照してください。

7. 関連マニュアル

(1) MELSEC

- ・Q対応 シリアルコミュニケーションユニットユーザズマニュアル(基本編)
- ・MELSEC-L シリアルコミュニケーションユニットユーザズマニュアル(基本編)

(2) オプテックス・エフエー

- ・変位センサ CD5シリーズ アンプ取扱説明書
- ・変位センサ CD5シリーズ センサヘッド取扱説明書 レーザタイプ
- ・変位センサ CD5シリーズ RS422によるCD5センサヘッドの制御

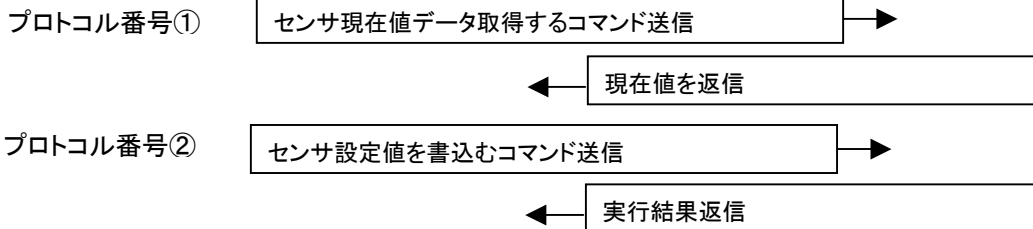
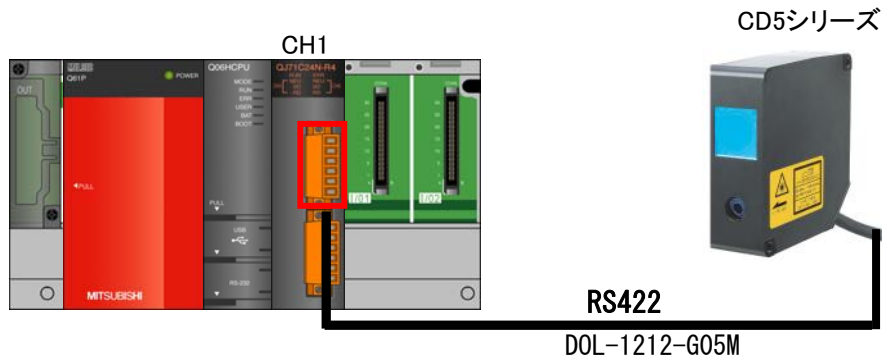
8. 使用例

センサの測定値の読出しとセンサへ設定値を書込みします。

(1) システム構成

Q シリーズシーケンサ

シリアルコミュニケーションユニット接続



(2) 通信プロトコル設定

通信プロトコル支援機能の設定を以下に示します。

MELSOFTシリーズ <通信プロトコル支援機能> - [プロトコル設定 - OptexFA_CD5_RS422_JP.pcf]

①現在値読出し

番号	メーカー	型式	プロトコル名	通信タイプ	→送信 ←受信	パケット名	パケット設定
1	オプテックス・エ	CD5	RM:現在値-読出	送信&受信	→ ←(1)	Measurement Read-M Receive data-M	(変数なし) 変数設定済
2	オプテックス・エ	CD5	WA:平均回数-書込	送信&受信	→ ←(1)	Measurement Read-A Receive data-A	変数設定済 変数設定済
			WH:シフト値上位-書込	送信&受信	→ ←(1)	Measurement Write-H Receive data-H	変数設定済 変数設定済
			WG:シフト値中位-書込	送信&受信	→ ←(1)	Measurement Write-G Receive data-G	変数設定済 変数設定済
5	オプテックス・エ	CD5	WF:シフト値下位-書込	送信&受信	→ ←(1)	Measurement Write-F Receive data-F	変数設定済 変数設定済

②平均回数書込み

①プロトコル番号1「RM: 現在値－読出」の設定

①－1送信パケット「Measurement Read－M」の構成要素設定

構成要素名	デバイス	用途
コマンド	－	”M“固定
DATA	－	”?”固定

※構成要素の設定方法に関しては、4. 1. (1)構成要素設定を参照して下さい。

①－2受信パケット1「Receive data－M」の構成要素設定

構成要素名	デバイス	用途
DATA0	D1001	センサ測定値の上位データが格納されます。
DATA1	D1000	センサ測定値の下位データが格納されます。

※構成要素の設定方法に関しては、4. 1. (2)構成要素設定を参照して下さい。

②プロトコル番号2「WA: 平均回数－書込」の設定

①－1送信パケット「Measurement Read－A」の構成要素設定

構成要素名	デバイス	用途
コマンド	－	”A“固定
DATA	D2000	回数指定

※構成要素の設定方法に関しては、4. 2. (1)構成要素設定を参照して下さい。

①－2受信パケット1「Receive data－A」の構成要素設定

構成要素名	デバイス	用途
DATA0	D1004	“<”正常終了“?”異常終了
DATA1	D1005	0202h(固定)

※構成要素の設定方法に関しては、4. 2. (2)構成要素設定を参照して下さい。

(3) デバイス使用一覧

①初期設定(「設定値(SV)」と「設定変化率リミッタ上昇・下降」の設定)の書き込みで使用しているワードデバイス

デバイス	設定値※1	用途		説明
D10	—	専用命令コントロールデータ ※2	専用命令の実行結果を格納するデバイス	専用命令のコントロールデータを格納しているデバイスの先頭番号が格納されます。
D11	—		実行結果	プロトコルの実行数が格納されます。(エラー含む)設定データ、コントロールデータの設定内容に誤りがある場合は「0」が格納されます。
D12	K1		実行プロトコル番号格納デバイス	プロトコル番号1を実行するので「D12」に「1」を指定します。
～	—		実行プロトコル番号格納デバイス(システム領域)	D13～D19はシステム領域として占有されます。
D19	—			
D27	—			
D100	K1	処理結果格納デバイス		処理結果に応じて値を格納します。 0:正常完了、1:通信不可、2:異常完了
D1004		センサ平均回数受信データ		“<”正常終了“?”異常終了
D1005	—	コマンド受信データ		0202h(固定)
D2000	K10	センサ平均回数設定値		1024回設定

※1 —:設定値の設定不要

※2 専用命令コントロールデータに関しては、該当するシリアルコミュニケーションユニットのマニュアルを参照して下さい。

デバイス	用途	説明
X1D	通信プロトコル準備完了通知	ON:通信プロトコル準備完了 OFF:エラー発生
M0	完了デバイス	CPRTCL命令が完了したスキャンのEND処理でONし、次のEND処理でOFFする。
M1	完了時の状態表示デバイス	ON:異常完了、CPRTCL命令が完了したスキャンのEND処理でONし、次のEND処理でOFFする。 OFF:正常完了、OFFのまま変化しない。
M10	現在値読出し CPRTCL命令実行トリガ	ON:通信プロトコル開始 OFF:通信プロトコル停止
M11	平均回数書込み CPRTCL命令実行トリガ	ON:通信プロトコル開始 OFF:通信プロトコル停止
M100	CPRTCL命令正常完了フラグ通知	ON:正常
M101	CPRTCL命令異常完了フラグ通知	ON:異常

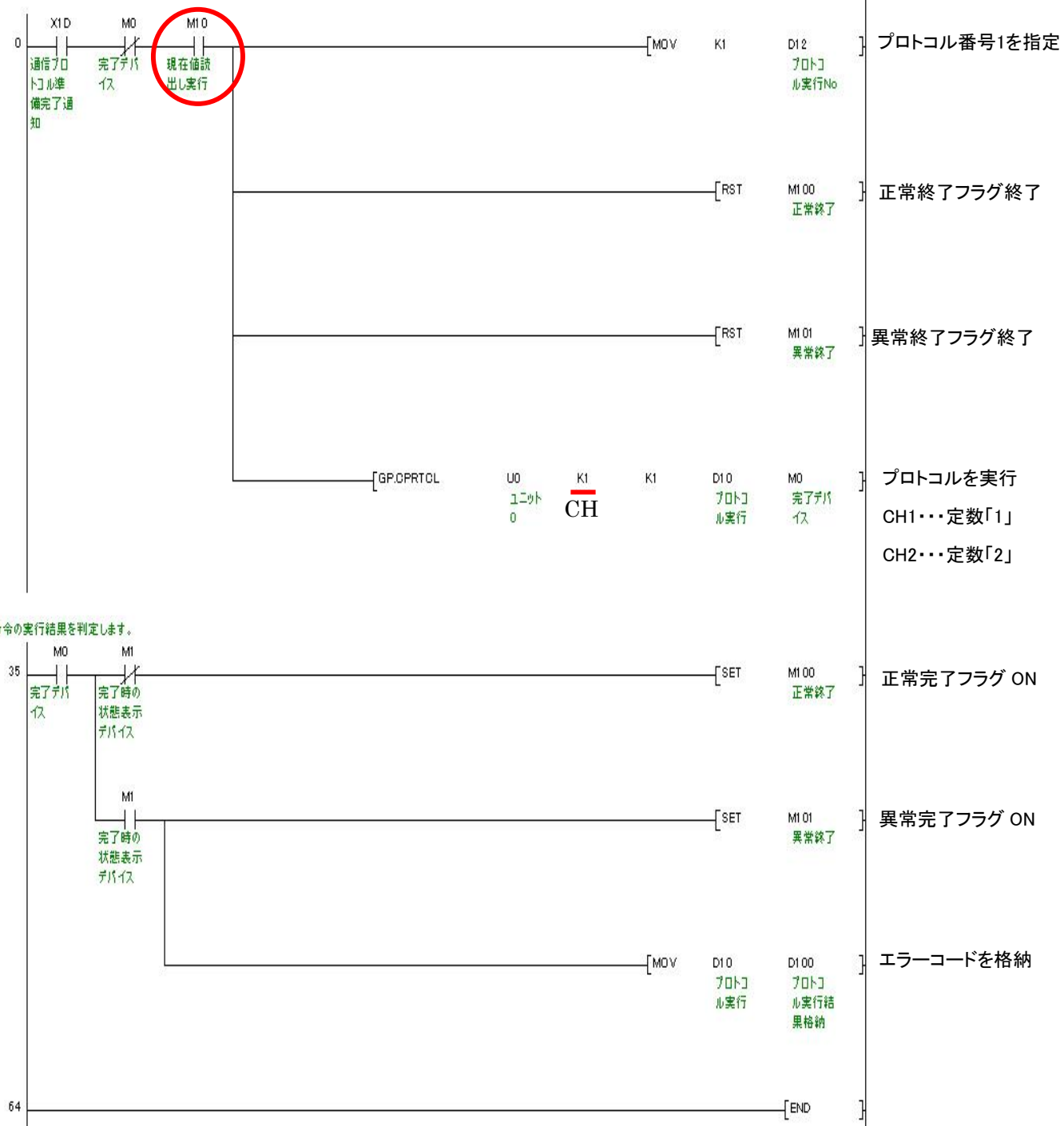
※1 —:設定値の設定不要

※2 専用命令コントロールデータに関しては、該当するシリアルコミュニケーションユニットのマニュアルを参照して下さい。

(4) プログラム

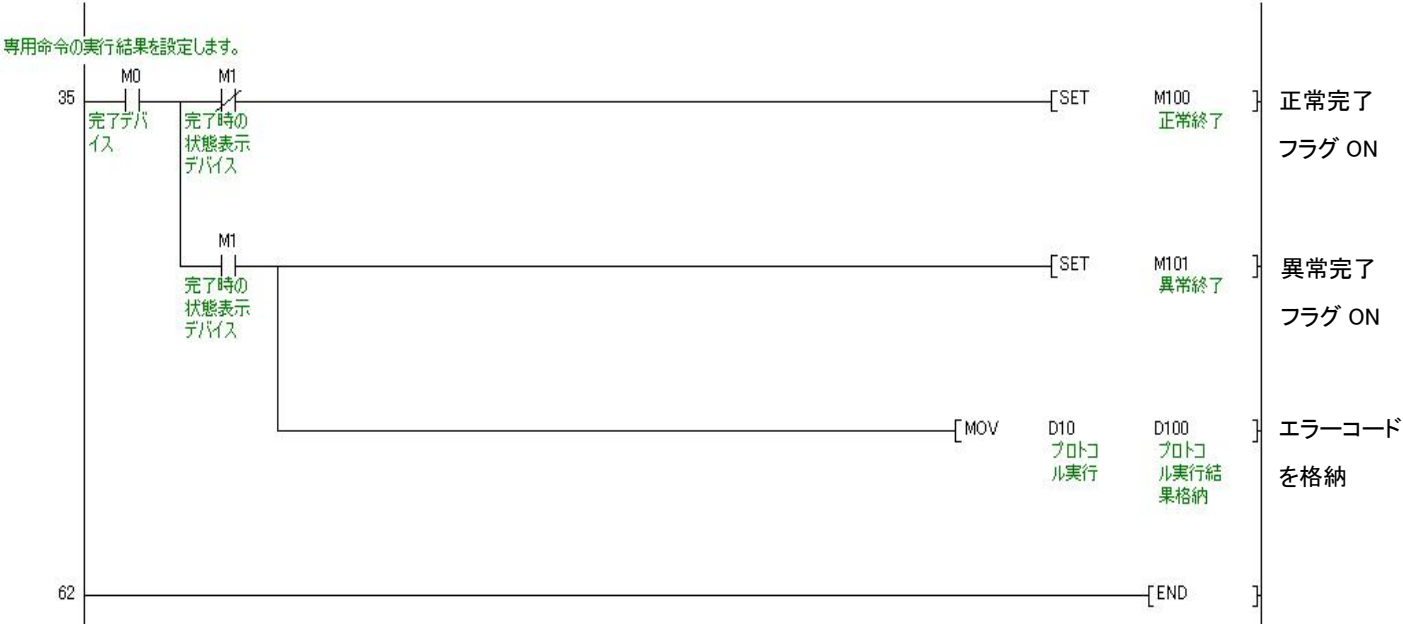
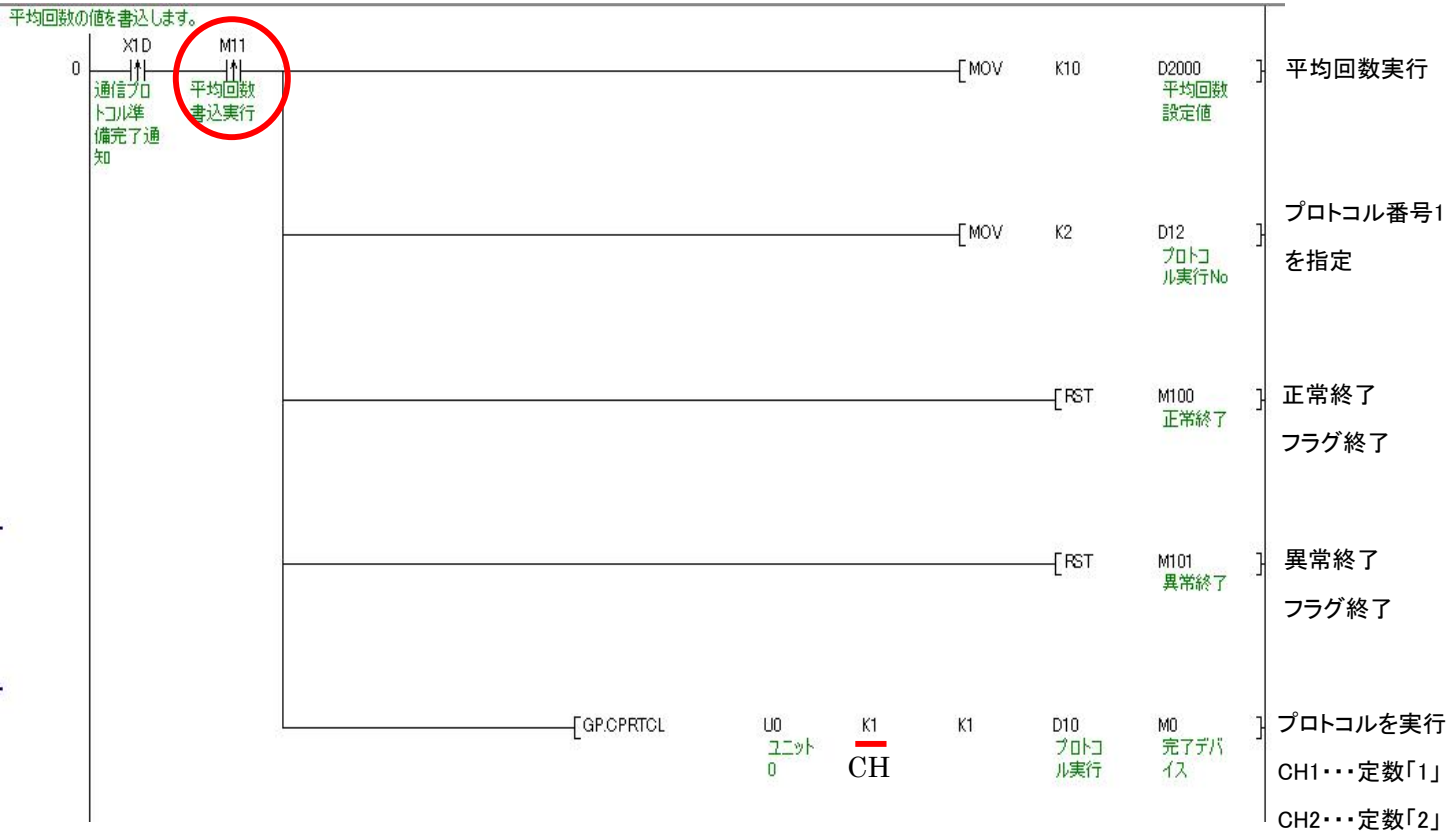
プログラム例①では、M10がONしたとき、「RM:現在値－読出」を実行してデータレジスタに値を書込みます。

測定値の値を読出します。



※専用命令の詳細に関しては、該当するシリアルコミュニケーションユニットのマニュアルを参照願います。

プログラム例②では、M11がONしたとき、「RM:現在値－読出」を実行し設定されます。



※専用命令の詳細に関しては、該当するシリアルコミュニケーションユニットのマニュアルを参照願います。

オプテックス・エフエー株式会社

本社:

〒600-8815
京都市下京区中堂寺栗田町91
京都リサーチパーク9号館 4F
TEL: 075-325-2920

東京営業所:

〒141-0031
東京都品川区西五反田4-32-1
東京日産西五反田ビル 10F
TEL: 03-5740-7851

名古屋営業所:

〒465-0041
名古屋市名東区朝日が丘2番地 TSビル1F
TEL: 052-776-7300

オプテックス・エフエー ホームページ

<http://www.optex-fa.jp>